

令和6年3月31日



令和5年度 東京都立園芸高等学校 定時制課程 経営報告

東京都立園芸高等学校長
並 川 直 人

1 目指す学校・目指す生徒

明治期に創設された本校は、常に我が国の農業教育の中心的役割を担ってきた。創立115年目の時代を築き、令和10年度の創立120周年に向けて名実ともに日本を代表する「農業の専門高校」としての充実を目指す。

校是「勤勉 勤労」

※ 校是とは、学校設立の根本精神をいう。初代校長、熊谷八十三先生が明治41年開校にあたり「勤勉 勤労」を生徒心得として定めた。

☆スクールミッション

「勤勉・勤労」を校是とし、検定・資格取得の推進、学校農業クラブ活動の活性化、地域・社会貢献活動といった教育活動を通じて、基礎学力と専門技能を身に付けた、人間性・社会性豊かで、社会に貢献し、予測困難な未来を生き抜く生徒を育成します。

☆スクールポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー

- ア) 資格取得・検定合格ができる基礎学力及び専門技能や知識を獲得する。
- イ) 将来に向けたポジティブなモチベーションを持つ。
- ウ) 他人を尊重したうえで、自らの考えを論理的かつ分かりやすく表現する力を身に付ける。
- エ) 課題を見出した上で、その課題を自ら解決する力を身に付ける。
- オ) 協働に必要なコミュニケーション力の一步である挨拶できる習慣を身に付ける。
- カ) 自分のみならず、他人や自然を敬う心を持つ。

(2) カリキュラム・ポリシー

- ア) 0時間目を活用し、学びなおしや資格取得・検定合格、キャリア教育のための講座を開講する。
- イ) 主要3教科では小・中学校の復習のための教材を活用する。
- ウ) 特別専門講師等から園芸に関するより高度な専門知識や技術を身に付けられる授業を展開する。
- エ) タブレット端末等を活用し、一人一人の能力や興味に応じた授業を展開する。

(3) アドミッション・ポリシー

本校は「勤勉勤労主義」という根本精神の下、土や植物と触れ合うことによって、園芸についての知識と技術を身に付けられる学校である。各学年1クラスで、家庭的な雰囲気の中で楽しく学ぶことができる。通信制高校の科目も学習することにより、3年間での卒業も可能である。

- 1 植物や農業に関心を持ち、意欲的に学習に取り組める生徒
- 2 毎日の学校生活に真面目に取り組み、積極的に高校生活を送ろうとする生徒
- 3 本校で学んだことを将来の進路に生かそうとする生徒
- 4 他人に対する思いやりや感謝の気持ちをもてる生徒

〈目指す生徒〉

基盤学力と専門技能を身に付けた

人間性・社会性豊かで、学び続ける力をもった生徒

不透明な時代で活躍するために「タフでしなやかな生徒」の育成

2 中期的目標と方策

東京都教育施策大綱～東京の輝く未来を創造する教育の実現に向けて～（令和3年3月）、都立高校の魅力向上に向けた実行プログラム（令和5年3月）、「東京都特別支援教育推進計画（第二期）第二次実施計画」を踏まえて「園芸高校定時制教育」に生かす。

(1) 学校経営

「個人商店主義」の排除、**一体的経営**を行う。

（学校は組織で教える所。全体のベクトルを合わせて進める。）

- ① 「教職員全体の経営参画意識」と「学校全体での改善」
- ② 「部分最適」よりも「全体最適」の優先 常に「最適解」を意識して計画し行動する。
- ③ 積極的な「見える化」により「情報」を学校全体で共有する。
- ④ 学校行事終了後は、生徒の変容と成果検証をすぐに行い、具体的な改善事項を実施後2回目の企画調整会議で報告する。
- ⑤ 「東京で一番、定時制・全日制の仲のいい学校」、「定・全」間の見える化を推進

(2) 学習指導 （共通の基盤）

校是「勤勉 勤労」の体現と**「力を付ける授業」**

- ① 「言語活動の充実」 本校では、特に**「読解力」**を育成し、「アウトプット（話す・書く・行動する）」も重視する。生徒の思考場面を重視した「考え抜く授業」を実践する。
・（定義の理解など）教科書を読んで理解できる力・表現できる力を育成する。
- ② 「東京都オリンピック・パラリンピック教育のレガシーを活かす」
大会を契機としたオリンピック・パラリンピック教育のレガシーを継承・展開する。
- ③ 「TOKYO ACTIVE PLAN for students（総合的な子供の体力向上方策（第4次推進計画）
体力向上を目指し農業系高校に相応しい体力を育成する。

(3) 専門教育 （多様な方向性、能力の最大化）

- ① 「資格取得」の奨励と「FFJ検定」や「アグリマイスター顕彰制度」の活用
- ② 「教員個々の指導力向上」「スマート農業技術など先端技術の習得」

(4) 生活指導 （規範意識の醸成と生徒に寄り添う指導の充実）

- ① 「挨拶ファースト運動」と生徒自身でできる「時間管理」の方法を作る。
- ② 「3つのリスペクト運動」で 互いに敬意を払い、尊敬されるよう自身を律する。
いじめ総合対策に基づいた「体罰といじめ」のない、許さない学校環境を作る。
さらに、自殺総合対策大綱に基づいた「自殺の未然防止」につなげる。
- ③ 「厳格」と「受容」（ゼロトレランス）と（カウンセリングマインド）により
早期発見と早期対応を組織的に行う。

- ④ 生徒の自己特性の理解推進と自分を客観視やメタ認知する支援の充実。
- (5) キャリア教育・進路指導（職業社会で自立し、成長できる力）
- ① 「学校から社会・職業へ移行した後まで見通した指導」
 - ② 「学校外組織と連携」（産業界、大学、ハローワーク、サポートステーション等）
- (6) 母校愛・連帯感（豊かな人間性と社会性）
- ① 「スポーツ大会・園芸展」などの学校行事で「連帯感」を強め、「社会性」を育てる。
 - ② 「学校の名所」維持管理で「母校愛」を育てる。
- (7) 地域連携（学校・地域・産業界の連携）
- ① 「地域連携リーディング校時代のノウハウを活かした連携」
 - ② 「専門」を生かした連携
- (8) 教育財産・予算（質の高い教育環境）
- 「校舎内外のきれい化」「歴史的教育財産の維持管理」

3 今年度（令和5年度）の目標と取組み（特に今年度行うべきこと）

経営計画実現のための〈基本施策〉

◇1「授業を磨く」

お互いに授業を見合う中で授業 PDCA を高める。定時制では人的リソースが限られるため、他校での授業実践や研究会等へ積極的に参加し研さんする。

◇2「地域と連携」：社会に開かれた教育課程の実践

定時制教育を通してよりよい社会を創る理念を実現させるため、社会との連携及び協働によりその実現を図る。成果検証のPDCAを常に行う。

◇3「次の10年への価値創造」：「地域と世界に羽ばたく園芸高校」

— グローカル・アグリハイスクール —

本校が持つ国際性（グローバル）・地域性（ローカル）・園芸教育（アグリ・ハイスクール）を複合し「グローカル・アグリハイスクール」として一層飛躍する。

人間性・社会性を育成するための〈生徒指導〉

1「挨拶ファースト運動」

挨拶の意味を理解し、自然と挨拶ができるように取り組む。

2「3つのリスペクト運動」生徒に敬意・尊敬・畏敬の念を育てる

- ① 人をリスペクトする（人に敬意を払う）
- ② 人にリスペクトされる（人に尊敬されるよう自身を律する）
- ③ 自然をリスペクトする（園芸の自然物に畏敬の念を払う）

(1) 学校経営

学校情報を発信する：適時適切な情報発信「リニューアルされたホームページの充実」「SNSを活用した発信の強化」「生徒募集活動の強化」「学校案内の内容充実」

→学校案内のリニューアルやSNSでの発信の強化に努めた。年度末には新たに公式

Instagramを開設し、定時制情報を発信した。

(2) 学習指導（基盤学力）

①全教員が「授業を磨く」、「ICT機器の利活用の推進」「教員相互の授業参観の実施」「外部での授業を参観し自己の授業PDCAに生かす」

相互の授業参観や全日制の授業参観を学期に1回以上、外部での模範授業や公開授業を年1回以上参観する。

→相互の授業参観を組織的に実施し、6回の相互参観（相互参観週間の設定、若手教員の研究授業）を実現した。ICT利用の授業を中心として校内に授業を開いた。

②学習成果の客観的評価をもとに、全教職員が出席してコア課題を設定し、定時制全体で生徒の学習課題の解決に取り組み、学力を伸長させる。

→一人1台端末を活用し、言語活動の充実と外部指標を活用して生徒の学習に活用した。

③生徒の学習に対する内発的動機を高めるために、「できた」「わかった」の授業場面を大切にする。小さな集団で「アウトプット」の機会を増やす。

→0時間目に設定の学び直し科目の充実や基礎学力の定着に取り組んだ。

④毎单元ごとに思考場面を設定し、「考え抜く」授業を実践する。

⑤STEAM教育の推進 各教科での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科横断的学習を展開する。そのための探究型学習、プロジェクト学習、課題解決学習などの学習活動の充実を図り、生徒の「答えのない課題」と向き合う力を身に付けさせる。

→プロジェクト活動を重視し、アウトプットの機会として東京都学校農業クラブ連盟のプロジェクト発表会に出場し最優秀賞を受賞した。8月には関東地区学校農業クラブ連盟大会に東京都代表として出場し、優秀賞を獲得した。

⑥1・2年生は一人1台端末を活用し、個別最適化された学習による自学自習と協働的な学びを通したアウトプットの習慣を確立させる。

→端末利用の機会を増やし、機器に習熟することができるよう様々な場面で活用した。3・4年生に対しては学校保管タブレットを貸与し同様に活用した。

(3) 専門教育（進路に生かせる技能、社会のニーズに応える人材育成）

① 検定 「日本農業技術検定（3級）」に挑戦させ、合格率85%以上を目指す。

② 資格 「造園技能検定3級、フラワー装飾技能検定3級」を選択して取得させる各学年において毎年、一人一つ以上の検定合格、資格取得を目指す。

→国家資格である2級造園技能士実技合格1名、3級3名、フラワー装飾技能士学科合格1名、P検準2級1名、3級1名合格、4級4名合格

③ 生産工程管理（GAP）の概念を理解し、実習場面で「GAPする」を実践する。

第三者機関であるJGAP認証を契機として安全・安心な農業を実現する。

→JGAPキュウリの継続審査を受け、継続審査に合格した。

④ 経営感覚を有した生徒の育成のために、生徒が栽培した生産品等の販売実習の場面において実践的な経営学習となるように事前・事後指導を充実させる。

→生徒が販売計画や売上計画を立案し、実際に栽培から販売までの一体的活動を実施した。

⑤ 学校農業クラブ活動の活性化、プロジェクト活動の充実と発表活動への参加

→JGAPキュウリの子ども食堂への定期的な供給と継続的な支援活動を実施し、東京都教育委員会の児童・生徒等表彰を受賞した。

⑥ アグリマイスター顕彰制度認定者2名以上。

→アグリマイスター・シルバーに3名の生徒が認定された。

- ⑦「農業教育と環境教育の両立」ESD (Education for Sustainable Development) =持続可能な開発のための教育、SDGs (Sustainable Development Goals) =持続可能な開発のための教育、の趣旨を生かした農業と環境の両立を図り、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育を推進する。ホームルーム等を活用したSDGsの実践を積み重ねる。

→月に1回「GAPの日」を設定し生徒と教職員が一体となってGAPの理念に基づく活動を実施した。生徒会と農業クラブが協力してJGAPとSDGsの連携活動を実施した。

(4) 生活指導（規範意識を高める）

- ①「お掃除ファースト」 (使用教室の清掃、ごみの持ち帰りでごみ処理量を削減)
②「時間管理」 (授業遅刻 **5%以内**) →1日あたりの平均遅刻者数4人、遅刻率は19%であった。(昨年同期は22%)
③「問題行動ゼロ」 (問題行動 **3件以内**) →問題行動は0件であった

(5) キャリア教育・進路指導（社会の変化に対応できる力を高める）

- ①「キャリア教育マップ」の活用し、早期からの進路意識の高揚を図る。
→0時間目の「キャリア教育」で年間24の職業を紹介した。進路指導部と担任とが協力して面談指導を行った。
②「教員による企業訪問・開拓」
企業や社会が求める人材像を的確に把握し、日常の指導に生かす。
③「アルバイトの推奨」 (社会参加のトレーニングとして 経験者率 **80%以上**)
社会的自立に向けた準備を行うとともに、自己理解と能力開発に努める。
→アルバイト経験率は56%であった。
④「就職希望」に対応する。(進路決定率 **100%、第1志望実現率 70%以上**)
→進路決定率 100%、第一志望実現率 100%を達成した。せたがやサポステと連携して1年生の時から自己の特性理解に努めさせた。

(6) 健康教育

がん教育や給食指導等を通して生涯に渡る健康づくりの基礎を身に付けさせる。
→がん教育、薬物乱用防止教室での講話の実施、健康教室としてボーリングを実施するなど、機会を捉えて情報を伝達し、考える場面を設定した。給食の喫食率は64%であった。
専門医派遣事業を3回実施し、担任会においてケーススタディを実施した。

(7) 地域・社会貢献（社会に開かれた教育課程の先進モデル）

地域活動における生徒の変容を大切にする。生徒自身が地域における活動において、外部からの評価を得ることで、次の学習行動につながるように指導する。
近隣の公共施設（玉川消防署、玉川警察署等）での花壇植栽活動を行う。
→年2回の植栽活動が定着した。署員とのコミュニケーションの機会にもなった。
→東深沢・等々力コミュニティ主催のフリーマーケットへの参加や古布回収など、地域と協働した活動を継続した。

(8) 教育財産・予算（質の高い教育環境を整える）

- ① 校内の名所「教育財産」を整備して価値を高める。
定時制と全日制で協力して維持・発展に努める。
→100年の庭の整備や入学式・卒業式の装飾を協働して実施した。
② 予算執行を早めに行い、落差金等を学校運営に活用する。
③ 経営企画室の経営参画意識と広報・広聴機能を強化する。
④ 施設・設備の改修計画に基づき、教育環境の改善と充実を図る。
→大規模空調工事を計画的に進め、経営企画室と教職員が

(9) ライフ・ワーク・バランス

- ① 「学校における働き方改革推進プラン」に基づき教職員各人のライフステージに応じた働き方改革を工夫し、生徒への教育の質は高めつつ教職員は Well-being（ウェルビーイング）な心身と社会的な健康生活の両立を図る。

そのためにも職務上作成した完成ファイルを共有し、知（ナレッジ）を学校の財産とする。

→企画調整会議・職員会議資料と会議の完全デジタル化を行い、完成ファイルの格納と紙資源の削減を達成した。

学校閉庁日の設定に当たり、保護者や学校外の理解・啓発を図る。

- ② 具体的な取り組み指針

- ・年次有給休暇の一層の取得促進（月 1 回以上の取得、年間 15 日以上）
- ・マイ定時退庁日を定めるとともに、職員間で情報や成果を共有し、校務の効率化を一層進め、定時退庁の促進を図る。
- ・長期休業期間や学校閉庁日においては夏季休暇、年末年始等と合わせ、連続した取得を図る。→夏季休暇取得率は 100%であった。

「東京都立園芸高等学校は持続可能な開発目標（SDGs）を行動基盤として社会貢献・地域貢献できる人材の育成を目指しています。」

